

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和3年度2月号

○ 概要

- (1) 令和3年度2月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,041億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+0.2%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,908円（伸び率+1.5%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,539億円（伸び率+0.2%）、薬剤料が4,489億円（伸び率+0.1%）、薬剤料のうち、後発医薬品が907億円（伸び率▲6.0%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,840円（伸び率+3.0%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.78種類（伸び率+2.0%）、28.3日（伸び率+1.4%）、74円（伸び率▲0.5%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,561億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+58億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の637億円（伸び幅+37億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+49億円（総額418億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,561億円 (+58億円)	39 その他の代謝性 医薬品(637億円)	21 循環器官用薬 (596億円)	11 中枢神経系用薬 (532億円)
0歳以上 5歳未満	14.7億円 (▲3.1億円)	44 アレルギー用薬 (5.8億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0億円)	61 抗生物質製剤 (1.6億円)
5歳以上 15歳未満	74.8億円 (▲7.3億円)	44 アレルギー用薬 (29.7億円)	11 中枢神経系用薬 (23.0億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.2億円)
15歳以上 65歳未満	1,289億円 (+12億円)	11 中枢神経系用薬 (260億円)	39 その他の代謝性 医薬品(240億円)	21 循環器官用薬 (182億円)
65歳以上 75歳未満	844億円 (+11億円)	39 その他の代謝性 医薬品(182億円)	21 循環器官用薬 (161億円)	42 腫瘍用薬 (132億円)
75歳以上	1,338億円 (+46億円)	21 循環器官用薬 (249億円)	39 その他の代謝性 医薬品(209億円)	11 中枢神経系用薬 (165億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,908円（伸び率+1.5%）で、最も高かったのは高知県（12,224円（伸び率+5.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,298円（伸び率+1.2%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは高知県（伸び率+5.8%）、最も低かったのは山形県（伸び率▲0.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	82.1 %	▲0.1 %
薬剤料ベース	20.2 %	▲1.3 %
後発品調剤率	79.1 %	+1.3 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.0 %	▲0.2 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲6.0 %	+2.7 % (100歳以上)	▲30.2 % (5歳以上 10歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	28.9 % (100歳以上)	12.3 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.1 %	86.6 % (100歳以上)	76.5 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	769 億円 (▲60 億円)	21 循環器官用薬 (225 億円)	11 中枢神経系用薬 (138 億円)	23 消化器官用薬 (90 億円)
0歳以上 5歳未満	4.7 億円 (▲1.6 億円)	44 アレルギー用薬 (2.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.3 億円)	61 抗生物質製剤 (0.3 億円)
5歳以上 15歳未満	13.5 億円 (▲7.4 億円)	44 アレルギー用薬 (8.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.3 億円)
15歳以上 65歳未満	267 億円 (▲20 億円)	21 循環器官用薬 (65 億円)	11 中枢神経系用薬 (58 億円)	44 アレルギー用薬 (40 億円)
65歳以上 75歳未満	182 億円 (▲14 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)
75歳以上	302 億円 (▲17 億円)	21 循環器官用薬 (92 億円)	11 中枢神経系用薬 (55 億円)	23 消化器官用薬 (43 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,487 円	1,930 円(北海道)	1,245 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.8%	▲1.2 % (沖縄県)	▲6.4 % (愛知県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.1 %	89.2 % (沖縄県)	78.7 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	23.8 % (鹿児島県)	17.2 % (京都府)
後発医薬品調剤率	79.1 %	84.6 % (沖縄県)	74.9 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.0 %	66.8 % (沖縄県)	55.2 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年度2月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。